

作／田口浩一郎

TPP

くどんでもなくピュアなパラダイス

下手袖より武志登場、スマホをいじくりながら反対の手でラジカセを持っている。武志、ラジカセのCDをかけると、お神楽の録音がかかる。するとスサノオの格好をして、農協のジャンパーを着た惣吉と、白い布で顔を覆い、左右の腕に八岐大蛇の首を嵌めた俊坊が出てくる。二人、お神楽に合わせて舞い、オロチ退治の伝説を演ずる。スサノオ、完膚なきまでに負ける。

惣吉 やめやめやめ、何やちよーかや、俊。オロチがスサノオに勝ってどげするかね。

俊坊 お前がいつまで経ってもかかって来らんけん、こつちからいつてやったわね。

惣吉 何がお前だ、兄貴に向かつて！

惣吉と俊坊、喧嘩を始める。武志、まったく興味なさげにスマホをいじり続ける。

耕一 (下手袖より登場) お前ら、表でなにやちよーかね。武志、音とめーだわね。

惣吉 こいつ、少しも動き頭に入っとらんけん、片付けの間に少し練習しとったわね。

俊坊 お前の動きが煮え切らんけん、いつ動いていいか分からんのだわね。

二人、また喧嘩を始める。

優一 おう、乗ってくかね？ (下手袖より登場)

全員、車に模した席に着く。ドライバー席：優一、助手席：惣吉、後部座席左：俊坊、中央：武志、右：耕一。惣吉と俊坊は相変わらず喧嘩しており、ミラーが見えずに後方を振り返った優一が巻き込まれる。武志、無関心にスマホをいじり、耕一は窓の外をじっと見ている。

惣吉 大体、お前は蜂部神楽の心がわかつたらんわ。

俊坊 じゃ、お前はわかつとるかね？

惣吉 昔、俺らの村は斐伊川の氾濫に悩まされ続けとった。な…それがオロチだわね、ヤマタの。

俊坊 で、スサノオが切り落としたオロチの首がバラバラになって、ようやく川の勢いが弱まった。

惣吉 そげだ。

俊坊 バラバラになった首は、水の神オロロンになり、今もこの村に住んどる。

惣吉 そげだ。

俊坊 今でもオロロンが見守ってくれるけん、俺らは村に住めるわね。知っちよーわ！
惣吉 知っちよるなあ。
武志 もう居らんけどね。

全員、武志に“しっ！”と言って口に人差し指を立て、発言を遮る。

武志

∴。

優一 やめ∴武志。

耕一 心臓に悪いがね。

武志 すんません∴。

優一 普段から注意せんと、ついポロツと出るけんな。

武志 あ∴優一さん。

優一 何かね？

武志 ちよんぼしポプラに寄ってもらってえーですか？

耕一 お前、また携帯止められちよーかや？

武志 違います、ポイントが足らんくなつて。

耕一 ポイント？なあにがポイントかいね、インポみてえな顔して、こいつは。

俊坊 どーせ出会い系だろうが。やめちよけやめちよけ、こげな時代にこげな田舎に来てごす女はおらんわね。

武志 そーがですね∴来月の村芝居見に来てごすつて。

優一、急ブレーキを踏む。全員、つんのめる。武志を振り返り沈黙。

惣吉 そら武志、その女は嫁に来てごすつて事かね？

武志 いやあ、まだそこまで決まつたらんけども、まあお互い本気だけん、そげん事なるかもしれん。

優一 お前、やるがね。

車を発進させる優一。

俊坊 早く子供でも産んでもらわんと。

武志 俺らも絶滅させられてしまうがな、農協に。

優一 武志！

武志 ……すんません。

耕一 でも、武志の言う通りかもしれないな。…見てみーだわ、耕作放棄地ばっかだけん…田んぼひび割れて…ジジババだけ増えてしまつて…。

惣吉 子供がおらん…その前に嫁がおらん…若いモンは出て行く。

優一 ジジババ増えるだけならまだいいわね…。

俊坊 減つて来ちよーわ。

耕一 廃墟…廃墟……廃墟、廃墟。（窓の外を眺めながら）

優一 ん…？

耕一 いや、増えたなーと思つたわね、廃墟。

武志 住人がおらんけんね。

惣吉 なーに、今に俺らも居らんくなるわね。

全員、笑う。優一、また急ブレーキ。

全員 わあっ！！

全員、つんのめる。

惣吉 お、おべたー。

耕一 どげした、優ちゃん？

優一 （後ろを振り向いて）あ、あすこに、お、女がおるわ…！！

全員 ええっ！

武志 なに、寝ぼけちよるかいね…。

優一 なんか店もあつたわ、用水路のところ。

惣吉 こげなとこに店なんかあるワケ無いがね。

優一 イヤイヤイヤ！あつたけんね！

耕一 ホントかいね？

惣吉 じゃ、一回、戻つてごすだわ。

耕一　じゃ、行くけん。優ちゃん、どの辺かいね？
優一　アレかなあ。一瞬だったけんあ。

全員、タイミングを合わせてキツと車が止まる演技。全員で一点を見つめ。

全員　NPO法人「オロロンの家」？

ドアベルの音が、からりんころーんと鳴る。

優一 ホラー！あったがね。なあ！ホラア。見えたけんねー。

武志 こんなモン、いつからあったかいね？

耕一 あー：『おろろんの家』って、書いてあったなあ？

惣吉 ああ。

耕一 おろろん食わしてくれるかいねー？

武志 そんなモンなあ、今さら食わされてもなあ。

俊坊 っていうか、もう食えんけんね、食いたくても。

俊坊、皆に怖い顔でたしなめられる。

耕一 まあ：今さら食わされてもなあ。いやー、わからん。東京モンかいのう？

武志 こんな作つてもなあ、誰も来らんけどねえ。

耕一 (展示物読む)あー？『おろろんは、あー、水の綺麗な所にしか住みません』：知つちようわ！

俊坊 知つちようわ！

全員 わはははははは！

女 ああ、いらつしやいませー！

男達、「おつた！本当におつた！」と驚く。女、優一の顔をじーつと見る。

優一 あ：：晩じまして。

女 あ、ば：：ばんじまして！喫茶のご利用ですか？

優一 まあ、ええ。

女 すごくいい所ですよねー！

武志 なんも無いですけどね。：：ここは、何の：：何のお店ですか？

女 (かわいいオロロンがプリントされたポストカードを配る)ハイ。ハイ。えーと、NPO法人

『おろろんの家』っていいです。オロロンを保護する為にですね、まあ、東京のメンバーと話合つて、ここに。

惣吉 まあ、でも、アレは、そげん進んで保護せんでも：：。

俊坊 今更、守ってどげすうだやって話だけんなあ。

女 ここにしか居ないんですよ、オロロンは。

男達 (気まずい様子) …まあまあまあ。

女 あの、ちよつと小耳にはさんだんですけど…秘密で、この辺りの人って、オロロンを食べてるってホントですか？

男達 あははははは！

俊坊 秘密じゃないけんねえ。

女 え、こ、公然と食べてるんですか？天然記念物ですよ!？

武志 あのねえ、そんなに美味しくないけどね、クセになーわね。
え…。

武志 美味しくない！美味しくないけど、クセになーわね。

女 いやあ！やめて！やめてください！

男達、女のあまりの恐がりぶりに引いてしまう。間。

武志 …え、あ…。

俊坊 あの、そげん恐がらんでも。

耕一 あんた取って食おうってわけじゃないけん。

女 え?…あ…すいません。

優一 さあ…じゃあこの辺でオロロンの話は終いにして…注文しようか。

男達、打ち切るように「だな」とか「オロロンはお終い!」とか言っつて、強制的に話を中断する。

俊坊 そげだなあ、オレ、カプチーノ。

女 カプチーノ。ハイ。かしこまりました。

惣吉、鼻を鳴らす。

俊坊 何かいな！お前！

惣吉 なんか、聞き慣れんこと言っちよるけんよ。

耕一 オレ、じゃあ、キャラメルマキアート。
女 キヤラメルマキアートですね。かしこまりました。
惣吉 へっへ。そげしたら、オレは、この『フェラペチーノ』
女 『フラペチーノ』ですね。
優一 おべたわ。下ネタ言ったかと思っただがね…。
惣吉 …何言っちゃよーかや？オメエ。
武志 じゃあ、俺もフェラペチーノで。
優一 俺も。
女 (軽く笑って) 少々お待ちくださいーい。

女、引っ込む。

武志 わっかい女じやのう！
優一 ああ、おべたな。
耕一 しかし、まずいな。
惣吉 何がかね？
耕一 オロロンだわね。
武志 あー、保護しに来たって？
俊坊 (武志に) たけ武さん、ちよっと喋りすぎだわね！
武志 そげかな？
優一 もうおらんけんね、この村にオロロンなんて。
耕一 もとはといえど農協が全部悪いけん。
惣吉 高い肥料売りつけやがってな…。
俊坊 じゃあ自然にバレるまで、敢えて俺たちの方からオロロンに触れるのはやめましようよ。
優一 うん、そげだな。
俊坊 あの女と深くかかわーのもやめーか。
優一 ああ。
武志 そげだけど。
耕一 あ？
武志 ちよっとカワイかったが？若かったしのう。

男達、「うーん」と悩む。女、「お待たせしましたー」と言って、飲み物を持って戻ってくる。無言で飲み物を飲み続ける男達。

女 あのだ。

男達 はい！

女 帰らなくて大丈夫なんですか？

俊坊 え？

女 いえ、いまごはん時でしょ？奥さんとか子供さんとか待ってないのかなあと思って。

惣吉 え…ああ、ハハ…。

武志 みんな独りもんだけん。

女 え…皆さん全員？

耕一 そう。

女 へえ。

耕一 気持ち悪いかね？

女 いえ、そんな。

耕一 嘘つかんでいいわね。

惣吉 あからさまに引いとったけんな。

俊坊 若い女はみんな都会に行ってしまうけんな。

武志 このままだと何十年後かにはこの村、人っ子一人おらんくなるな。

惣吉 ハハ…その前に人手不足でよお、農業が出来なくなるけん。

男達、虚ろに笑う。

女 お手伝いしましょうか？

武志 え…？

女 あ、ご挨拶遅れてましたね。アスミっていいいます。こないだ住民票も移してきました。

武志 え…じゃあ？

優一 ここに住むかね？

女 はい。

男達、歓声を上げて大いに盛り上がる。

俊坊 アスミちゃん、彼氏おるかね？

女 今、フリーです。

男達 おー！

武志 ひよつとしてですけど…農家に嫁に来る気とかは？

女 良いご縁があれば。

男達 おー！

優一 でも、このあたり四十がらみの男しかおらんけんあ。

惣吉 っていうか、俺達しかおらんけん。

男達、自虐的に笑う。

女 あたしも今年三十ですから、いいんじゃないですか？十くらいの年の差ホント！？

女 いえ…まあ、良いご縁があれば。

武志 ウチに…ウチに嫁に来てごすだわ！

女 え？

俊坊 武志！おめえ、彼女おるがね！

武志 顔もわからん女よりアスミちゃんのがいいわね！

耕一 よし、じゃあ自己紹介も兼ねてマンツーマンでアピールタイムってのはどげかね？

優一 村コンじゃないけんね。

女 あの…。

耕一 まあ、遊びですから、自己紹介も兼ねた。じゃ、取り敢えず一番若い俊坊から行くか！

優一 三十九だけどな。

男達 あはははは！

耕一 じゃ行くだわね、俊！

俊坊 えー…っと、あの…ども！あのー、俊ですー。アレですう、林業ですう。よろしくーお願いしますう。

俊以外
耕一 あはははははは！
カワイコぶつとーな、お前！（笑）じゃあ、わしな。…えっと、えー、その、上の畑で梨作つとーます。とつても甘くて瑞々しいので…一緒に、食べてください！

武志 かつたいなー。
そげかのう？そげかのう？

耕一 そげに堅い自己紹介だと、オメェんとこの梨みたいだがね。

武志 じゃ、優ちゃんだわ。優ちゃんだわね。

物吉 えー、村の向こうの方で米を作つとります、優一です。ウチのカアチャンは嫁が来たら、優しくするとおますけん、嫁姑もね、仲良くして、ね…嫁に来てごすだわ！お願いします！

全員拍手。

武志 さすが優しい優ちゃん！

俊坊 『優しい』と書いて『優一』だけんね。

物吉 …あ、オレ？あー、えーつとなあ、おらーなあ…。

耕一 一杯やった方がいいんじゃないかね？ビールあるかいね？

女 あ…中ビンが。（店の奥へ入ろうとする）

女 あ、いいけんいいけん…俊坊、取ってくーだわ。

物吉 いえ、私が。

俊坊 いや、あんた行つてしまつたら話にならんけん。ほれ、俊。

俊坊 わかつたわね。

俊坊、袖へと下がる。

物吉 さ、じゃ俺の番だけんね。…オレはまあ、トマト作つとる農家だわ。美味いけん、いっぺん食いにきてごすだわ？な？な？

武志 みんなアレだ。作つとるモンばつか言つて、自分らのことちつとも話さんがね。

武志以外の男達、「シャイだけん」「農家だけん」等、抗議。

耕一　じゃあ、武志、やってみーだわね。
武志　じゃあ、ベシッ！とキメてやるけん。オレは今まで、何でもベシッ！とキメてきたけんね。

武志以外、「わかったけん」とか、「早くやるだわね」とか武志をけしかける。

武志　（ひっくり返った声で）しよ、消防団の班長やつとります！武志っていいます。あの、消防団で『操法』しとーます。『操法』っていうのは、消防団が、全国の消防団が、イヤ、全国の消防団がいっぺんに全部集まーと大変なんで、あの、その地区ごとの消防団がおって、その中の地区ごとの分団が…。

惣吉　大丈夫だけん！もう大丈夫だけん。

武志　伝わったかいね？

惣吉　伝わった！伝わったわね！

耕一　じゃあ、気持ちいを伝え終わったところで、アスミちゃんからのお返事タイムいってみるかいいね！

男達、一斉に拍手。

アスミ　NHKスペシャルでオロロン特集を見て、住むならこの村だあって引っ越してきた伊藤アスミです！私は今日皆さんと会ったばかりで、付き合うとか付き合わないとか、結婚するとかしないとか考えられません、十ぐらいの年の差はアリだと思ってます。

男達、歓声と拍手。

アスミ　あと、私はオロロンが好きなので、オロロンが好きな人と付き合いたいと思ってます。オロロン、好きな人！

男達、「は、はい」と手を上げる。

アスミ
ありがとうございます！あと残念ながら、あたしこの村に来てから、一度もオロロンと会ったことがありません。オロロンと会わせてくれた方のこと、好きになっちゃうかも（笑）どなたか、私とオロロンを会わせて下さる方、おりませんか？

男達、「…は、はい」と手を上げる。

アスミ
ありがとうございます！楽しみにしてますね！

俊坊
アスミちゃん、アスミちゃん。

アスミ
はい。

俊坊
ビールって、これ？（瓶を出す）

アスミ
はい、オロロンビール。

男達
なにそれ…。

アスミ
作ろうと思うんです、地ビール。今はラベルだけ。

武志
筋金入りだわ。

優一
会えるといいね、オロロン。

アスミ
はい！

男達
そして、翌朝！

惣吉以外、退場。「蜂部惣ちゃんトマト」の段ボール箱を抱えた惣吉、カラリンコロンとドアベルを鳴らして「おろろんの家」に入ってくる。

惣吉
あー…アスミちゃん、惣ちゃんトマト持って来たけん！…アレ？あ？…アスミちゃん。…おーい！…もしもし！

アスミ
（水質検査キットを持って袖から登場）すいませーん、ちよっとお店あけちゃってて。どうしても水質検査がしたくて。

惣吉
はあ、水質検査。

アスミ
そうなんです。オロロンが棲める環境になってるのかどうか確かめたくて…。なんか、全然見

かけないじゃないですか、オロロン。

惣吉 うん…でも…まあ、探しゃ結構おると思うけどね。まあ…多分。
アスミ そうですかあ？ちよつと気になるんですよ、用水路のリン分と窒素分が高くて…。

ドアベル。耕一が店に入ってくる。

耕一 アスミちゃん！梨、持ってきてちやったわー！

三人鉢合せ。

惣吉 あ！

耕一 あ！お、お前！風邪でお神楽の稽古休むって…。

惣吉 (わざとらしく咳き込み)…か…風邪も引いとるわね…。なんかいね！お前えだつて、今日は用事があるつて言つとつたがね！

耕一 なくなつたわね！

アスミ まあまあ…。お二人とも、何か飲んで行かれますか？

耕一 そ、そげかね？そげするかね？そげするか？

惣吉 うん。じゃあ、なんか飲んでくかいね。

舞台の段差に腰かけ、喫茶店の体。

アスミ 何飲まれます？

耕一 えー…抹茶オーレ。

惣吉 んー…きや…キヤラメルマキアート。

アスミ はい。かしこまりました。

アスミ、店の奥へと消える。

耕一 (店を見廻して) オロンなあ…古い写真ばつかりだが。
惣吉 ま、新しい写真なんて、撮れんけんね。

アスミ、飲み物を持って現れる。

アスミ お待たせしましたー。

惣吉 おーおー、早いね。

耕一 …じゃあ、いただきます。

アスミ ハイ！

二人、飲む。

耕一・惣吉 あー。

アスミ それにしても、私、思ったんですけど…オロロンの写真って古いのしかないんですよ。

惣吉 大体使われる写真なんて決まってるけん。

アスミ 私、まだこの村に来て一度も見えてないんですけど…。これはもう、相当に数が減ってきている

と考えて…。

そ、そげだねえ。数は減つとるかもしれないなあ。

オレが…小学…五年生くらいまではよく見たけんね。

仙石先生来たわね。

アスミ ホントですか？

耕一 おうおう。だけん、あの頃はまだ探せばおったってことだよなあ。（ハッと気づいて）今だっ

ておるけん！今だっておるけん！

おうおう！今だっておるけん！ちよっと前…沼で…見たけんね。

沼ですかあ…。でも…あの、一番大きい一番ポピュラーな黒オロロンは用水路に多いって聞いたん

ですすけど…。

うーん…。

私、行きます！

いやいや、素人が沼とか入ったら危ないけん。やめてござだわ。

惣吉 沼をナメたらいいけんよ。

アスミ でも、わたし、おろろんに逢いたいんですよ！

惣吉 …いやあ、まあ、気持ちはわかーけども。なあ。

慣れた人と一緒に行けばいいんですよ？慣れた人…誰か居るかしら？

アスミ

静かに手を挙げる惣吉。

耕一 お、お前、何いつちようかや！

アスミ 惣吉さん、行つてくれます？

惣吉 沼の事なら、まかしくだわ！

アスミ 行きましよう！行きましよう！じゃあ、仕度しなくちや！

アスミ、嬉しそうに袖へと入つていく。

耕一 …お前…だらくそだなあ。(小声で)本当に沼でオロロン見たかね？

惣吉 いや…影を見たわね…あはは。

耕一 影？

惣吉 あ…これオロロンじゃね？つていうくらいの…影なら。(急に落ち込み)…つい勢いで言つてしまつたわね。

耕一 そのうちバレるがね。

惣吉 (小声で)なんかやかんやおろろんの話してやりやあ、きっと満足するわね。

耕一 わかつたわね。俺も一緒にいつちやるわ、そしたら。

惣吉 それは違かろう。

耕一 俺、沼は詳しいけんね。アスミちゃん！俺も行くけんね！

惣吉 あ、お前え！アスミちゃん！俺と行つてごすだわ！

惣吉と耕一、アスミの捌けた下手袖へと退場。

この後、下手袖から惣吉、耕一、アスミがリュックを背負って出てくる。

惣吉 この辺でいいんじゃないかね。

アスミ ここが蜂部沼ですか？

耕一 そげだわ。

優一、俊坊、武志が「そげだな」、「そげだわ」と言いながら登場

惣吉 何でお前えらまでついてきちよーかね。

アスミ あたしが誘ったんです。人手が多い方がいいと思って…。

俊坊 腹が萎えんかね？

優一 うん。

惣吉 弁当作ってきたけどなあ。

俊坊 なに！

アスミ …あの、実は私もお弁当作ってきました。

男達、全員盛り上がる。

惣吉 じゃあ、そつちからいこうかいね。

アスミ ハイ！藻がいつぱいのベジタブル弁当です！

男達 う、うーん…。

武志 …藻？

アスミ これが美味しいんですよ。

優一 藻かあ…。

アスミ 最近流行ってるんですよ、藻。ミドリムシとか食べられるんですよ。

耕一 ああ、聞いたことあるわ。

男達、恐る恐る食べ始める。

アスミ ヘルシーでしょ？

俊坊 なんかもサモサする…。

惣吉 ああ…じゃあ、コッチも出しとくかな。

優一 おお！

アスミ じゃあ、私、お肉食べられないので、野菜だけいただきます。

惣吉 あ、あー、そげかね。ベジタリアン…かな？都会の人は、やっぱ違うわ。

アスミ これは、惣さんの所で作ったトマトなんですか？

惣吉 もちろん。

アスミ なんかも草みたいな味がして、美味しいですね。

惣吉 うん…草ね。

アスミ 青々とした感じで。

惣吉 ああ…やっぱ、あんま美味くないかいね…。

アスミ いえ、美味しいですよ。青々として。

惣吉 お、おう…だんだん。

アスミ …さ！そろそろいいですかね？

男達 (口を食い物でパンパンにして) ーです。

アスミ (沼を見渡して) よく見ると、汚いですねえ。

惣吉 沼はどこでも、こんなもんだわ。

アスミ ゴミ袋持ってきました！

全員、ゴミ拾いを始める。優一とアスミ以外はみな渋々。

アスミ (ゴミを拾いながら) この辺のオロロンは何オロロンなんですか？

惣吉 ん？

アスミ 用水路に居るのは黒オロロンですよ？

惣吉 う、うん。そげだねえ…(周りと気まずそうに目を見合わせる)…白…おろろん…かな。

アスミ 白おろろんですか。おかしいなあ…海に近い所に居るはずですよええ、白おろろんは。

惣吉 あ、えー、あー…。

俊坊 グ、グレーおろろん…かな。

アスミ そんなの居ましたっけ!?

耕一 白と黒がこの辺で…ね。

俊坊
アスマミ
俊坊
アスマミ
耕一
優一
アスマミ
惣吉
武志
俊坊
優一
アスマミ
惣吉
アスマミ
俊坊
惣吉
優一
アスマミ
俊坊

ああ！ざ、ざ、雑種！

そんなのいるんですか！？

さ、最近出来たけん、『グレー』なんだわね。

こういう藻のある所にいるんですよね。いっぱい。

(小声で)そ、そげだったか？

(小声で)そういうことにしよう。…そ、そげだ！そげだ！

そげだわ！

じゃあ、藻を中心に探してください。

じゃ、じゃあ、オレ、この辺…おろろくん！

おろろくん！

おろろくん、おろろくん！

おろろくん！

…なんだか少しもいませんねえ。

お、おる…おるはずだわね、うん。

…：そういうば…ワシ、この沼にいつぱんオロン放したことあるけん。

え！？

ん？

それ、いつですか！？

あれは…小6くらいだったかいね。

あなたが…。(優一をじっと見つめる)

え…(いきなり見つめられ、慌てる) ああ、そげそげ。

アレだろう？優ちゃんトコで食おうとしたんだろう？

うーん。したら、逃げて、道路に出ちやつて…。このままじゃ車に轢かれちゃうなあ…と思

ったワシは、捕まえて安全な所に放してやったわね。

さすが！優しいと書いて、優一さんだわ！

それ何年前かいね？

だから、ざつと三十年前だわ。

そげだろう？そんなにあんなもんが…。

でも、オロンは百年以上生きる個体もいますから…ひよつとしたら…。

(小声で)そもそも沼では生きていけないのじゃないか？

武士
アスミ (小声で) しーっ、アスミちゃんに聞こえたらどげするかね。
耕一 あ！あんな所にも、ゴミが！
惣吉 いや、あそこは取れんわね、アスミちゃん。
アスミ あー、ちよつと深いわね。
惣吉 いや、浅いと思いますよ、ここ。
物吉 いや、浅く見えてねえ、結構ねえ…。
優一 よし…。

優一、沼へ向かっていく。

耕一 おい！優ちゃん！
優一 誰か行くしか無いけんね…。
アスミ あ！そっち行かない方がいいと思います！
優一 あ、こつちダメ？…詳しいねえ。
アスミ なんとなくわかるんです。
優一 あ、ホントだわ。足場あるがね。
アスミ あ、そこダメ…。
優一 え…あれ！ああああ！

優一、足を取られ動けなくなる。

耕一 どげした！優ちゃん！
優一 足を取られて動けんがね！
惣吉 よし、助けに行くぞ！待ってごせ！

耕一と惣吉、優一に近付くが今度は二人が足を取られる。

耕一 ああ！
惣吉 動けんわね！
アスミ そこ、危ないですよー。

惣吉　　言うの遅いけん！助けてござだわ！

俊坊、アスミが出したロープを投げる。優一、惣吉、耕一、それを掴んで這い上がる。

優一　　こりや、危険な沼だわ。

耕一　　おろろんは暮らせんわ。

惣吉　　そげだな。

武志　　ここにおろろんがおったら…。

アスミ　　死んでますよ、普通なら…。

ほつとして冗談を言い合う男達をよそに、アスミ、「こんなところに放されたら…！」と、呟く。

俊坊　　はっは！泥だらけだがね、三人とも。

惣吉　　いやいや、笑ごとじやないけんね、お前！

アスミ　　…皆さん、ごめんなさい。あたしのワガママのせいで…。

惣吉　　あ、いやあ…なあ。

武志　　アスミちゃんの為ならこげなことくらい…。

武志、皆に「お前、何もやつとらんがね」と責められる。

アスミ　　今日は皆さん、晩ごはん、ウチの店で食べてって下さい。

俊坊　　え！

優一　　いいかいね？

アスミ　　その位させて下さい。良かったら。

男達、
「イイに決まっちゃーがね！」と盛り上がる。と、アスミ、足元の藻を拾い上げる。

アスミ　　あ、これ、藻！

男達　　藻？

アスミ　　ホラ！あのお弁当に入ってたやつ！

耕一 え！？
アスミ ホラ！美味しいんですよ！

アスミ、男達に藻を勧める。

惣吉 い、いや、今は大丈夫だけん。

アスミ 美味しいんですよ！

武志 い、いや…今は…遠慮しとくわね。

アスミ 美味しいんですよ！

優一 美味しいかいね？これ…どげして食うかね？

耕一 ホ、ホントに食うかね！？

優一 いや、だつて…まあ、一度は食ったけんな。

武志 まあ、藻は百歩譲っていいとして、周りに付いとる付着物が…。

惣吉 そげだわね…。

耕一 お前、ここは、だつて…アレだぞ！（小声で）肥料流れ込んだぞ！この辺の農家はみんな

優一 流しちよーがね！

あぁ。知つとるわね。

耕一 そげなもん食つたら、お前…。

優一 洗えば、食えるわね。

優一、水筒の水で洗つて藻を食べる。水はマイム。

優一 …沼の味がするわ。

武志 そりゃそげだわね。

優一 弁当で出された時は、なんかいろんな調味料と混ぜってたからあんまり感じんかったけど…。

アスミ 私はこの風味、好きですけどね…泥臭いカンジ？

俊坊 泥臭いっていうか…。

優一 沼臭い…。

アスミ ここに放されたおろろんも、これを食べてたのかもしれないね。

沈黙。

アスミ

よし、じゃあ今日は藻のフルコースにしましょう！

男達

えー！

アスミ

はい、皆さん藻を集める！

男達、渋々藻を集める。

全員、急いで上手に整列。

武志　　ここが、優ちゃんとこの田んぼだが。

優一　　今、水張つてあるだけけん。

アスミ　あ、一応ここも水質検査してみているですか？

優一　　…うん。まあ、どうぞ。

アスミ、水を採取しテスト。

アスミ　あれ…なんか。

俊坊　　どげしたかね？

アスミ　リンと窒素分がとつても…。

耕一　　あー。

惣吉　　あー。

アスミ　え？

優一　　肥料かもしれんな。

アスミ　肥料？

惣吉　　農協が勧めてくれる化学肥料だわね。

アスミ　化学肥料…。

耕一　　営農指導員が来るんだわね、農協さんの。

アスミ　でも…こんなリン分と窒素分が高くなって…これじゃ微生物が大発生してオロロンの食糧が…。

惣吉　　いやー、いうこときかんと。大変な事になるけん。

アスミ　でもこんなに化学肥料使ったら、それは…棲めなくなりますよ！

優一　　でも、化学肥料を使うことによって暮らしていけるんだわね、わしらがこの村で。

アスミ　オロロンは暮らしていけなくなるんですよ！

俊坊　　おるわね、オロロン。

武志　　ああ、おるわね。

アスミ　いないじゃないですか！この村に来てから一匹も見えてません！

耕一　　おろろんは…おるけん。仮におらんくなつたとしても…。

惣吉　　それは肥料のせいじゃないわね。

俊坊
武志
耕一
アスマミ
物吉
耕一
優一
アスマミ
優一
アスマミ
耕一
優一
俊坊
物吉
アスマミ
男達
アスマミ
耕一
物吉
アスマミ
物吉
アスマミ
武志
アスマミ
俊坊
耕一
物吉
アスマミ

うん。
ない。
でも、おるけんね。
どつちなんですか！
だけん…（小声で）大変なんだわね！農協が売りつけとる化学肥料のせいで天然記念物が絶滅したなんてことになったら！
農協の一大収入源だけんね、肥料の売り上げは。
まあ、農協さんは環境負荷は低いと言っとるけん、大丈夫だわね。
何が？
オロロンは大丈夫だわね。
皆さん使ってるんですか？
まあ、人手も足りんけんなあ。
農協から人が来て、これ使えって言われたら、もう「うん」って言っしかないわね。
ここで暮らしていけなくなるわね。
わしらも好きで使ってるわけじゃないけんね。
…あたし、報告します。
…！
ウチの団体に報告します。
いや、そりやマズイわね。
な、話聞いとったよな？そりやマズイんだわね。
でも、やっちゃいけないことは、やっちゃいけないんです。
だから、使っちゃいけないつちゅう決まりは…。
自然は！…守らなきゃいけないんですよ！
でもなあ、現におろろんは生きとるがね。
生きてません！
いやあ、生きとるがね
生きとるがね。
影を見たがね。
おろろんは、もういません！

全員、アスミの周りで「しー！」と人差し指を口の前に持って来る。

武志 村では、言っではいけない事もあるんだわね。

アスミ 自然と村、どっちが大切だと思ってるんですか！

優一 自然を守れば、食っていけないけんあ。

アスミ 私、報告しますから！

耕一 アスミちゃんだって、ここで暮らしていききたいでしょ。

アスミ 私、オロロンを守りたいからここに住んでるんです！

耕一 じゃあ、もう心配無用だわね：おろろんおらんし。

武志 いや、おる。

俊坊 おるわね。

耕一 うん、おる。

アスミ いないんですよ！

耕一 うーん：困ったわ。

アスミ 農協からそういう指導があつたっていう事は言いますから。全て農協のせいだつて事ですよね。

男達 いやいやいやいや！

アスミ おろろんは、もういないんです！

アスミ、泣き出す。「おろろんはもういない」と繰り返し、まるで子供のように泣く。慌てふためく男達。

俊坊 お、おい：ちよつと。

優一 こげなところで：！

武志 いけん！ばあちゃんだわね！

優一 なに！

惣吉 やべえぞ、武志のばあちゃんスピーカーだけん。

耕一 とにかく車に！

男達、泣き続けるアスミに頭から服をかぶせて袖へと引きずっていく。

おろろんの家。ドアベルの音、ヘトヘトになって袖から出てくる武志を除く男達。アスミはまだ鼻をすすっている。

俊坊 いい加減に泣き止んでござだわ。

アスミ だって：おろろんが：おろろんが…。

惣吉 俊。

俊坊 おう。

惣吉 おめえ、優ちゃんの車で武志ひろって来てござんかね。

俊坊 わかったわ。：優一さん、キー。

優一、キーを渡す。袖に引つ込む俊坊。ドアベル。

惣吉 で：本当に明るみに出すかね？あの話。

アスミ 当たり前じゃないですか！

でも、そげすーとき、オレ達だけじゃなくて、村のモン全員が困るわね。

農協が売りつけた肥料のせいで、天然記念物が絶滅したなんてことになったらなあ。

惣吉 農協さんの肥料に問題があったコトになってしまいうけんあ。

アスミ それじゃいけないんですか？現に問題が…。

優一 いけんわね：農協さんの売ったモノに問題なんかあったら。

耕一 例えばさ、優ちゃんみたいな米農家なんてさ、もう、農協が米を買ってござけん成り立つとる

わね。

肥料も農薬も農機具も金がかかるわね。農協ならとりあえず現金なしでも売ってくれるけん。

銀行じゃ貸してくれんけんあ、米作りの費用なんて。

で、後で販売代金から差っ引くわね、俺らのJA口座から。

そつから生活費を引いたら、あとにや何も残らんわね。

優一 何も残らんけん、農協から肥料や農薬を買うしかない。

惣吉 農協に逆らったら、食っくいけんわね。

アスミ 食っくいけんから、用水路に毒を流してたつてことですか？

惣吉 まあ、そげ言うけども…。

アスミ ここにしか住めない貴重な生き物を殺してたんですよ！

惣吉 まあ、でも、オレ達だって、生き物っちゃ生き物だけんなあ。
 耕一 ……生存競争だけん。
 惣吉 生存競争には勝たんといけんけん。
 アスミ 競争って…別に、おろろんは人間と競争なんてしてません！
 耕一 そげ…かな。
 アスミ おろろんはあなた達と、何か獲物を取り合ってたんですか！
 耕一 そげは…ないな。
 惣吉 隣で暮らしてただけなのに！突然勝負を挑まれて！自分だったらどうですか！
 惣吉 いや、おろろんに勝負挑まれても…。
 優一 そげなら、もうこうしよう。農協の化学肥料がいけんとなったら、もうこの辺の農家はさ…農協
 耕一 さんと付き合っついていけんようになるけん。農家やっついていけんけん。ウチだけが…もう、使っちゃ
 優一 いけん肥料使ったつちゆうことにして…全部オレのせいにして…。
 耕一 いや、そげん事出来ん！そげん事は出来んけんね！
 優一 わしがおろろんを殺したんだわ…ウチが出て行って…で、村の皆が助かればいいがね。そういう
 耕一 内容の報告にしてもらえんかいね、アスミちゃん。
 耕一 何馬鹿なこと言っとるかいいね！優ちゃんが出てったって、俺らが化学肥料使わないけんことは何
 優一 も変わらんけん。
 優一 有機肥料に無農薬でもやったらいいわね、有機農法でも。
 耕一 それじゃ、暮らせんわね。
 アスミ そんな事ないですよ。
 惣吉 いやあ、俺ら兼業農家だけんね…。
 耕一 普段は地元の工場とかでサラリーマンやっつとるわね。農業収入だけじゃ暮らせんけん。土日だ
 耕一 けだけんね、農業出来んのなんて。それでやっつこうと思ったらもう無理なんだわ、化学肥料
 惣吉 でも農薬でも使わんと。
 優一 なつとるんだわ、農協ともたれ合わんと生きて行けんように…。
 惣吉 オレだってなあ、農協は腹に据えかねとるわね。あ？結局、最後は農家が潰れて農協だけが太
 優一 るわね。なんで優ちゃんが出ていかんといけんかね！
 アスミ ……出てくんですか？優一さん。
 優一 仕方ないわね。
 アスミ 今、東京では、無農薬の野菜がとっても流行ってるんです。

惣吉 あ？

アスミ

ウチの団体でも…特に高級スーパーとかの幹旋先を知ってるんですよ。そういう所に売り込めばきつと生活出来ると思うんです、農協に頼らないでも。

耕一 大変だけん、そげな事したら。もう、周りに嫉妬されて…。

アスミ 嫉妬？

惣吉 農協の流通ルートつちゆうもんがあるわね…。

耕一 それ通さずに売り上げでもあげようもんなら、もう…。

優一 もう…村八分だわ、それこそ。

耕一 暮らしていかれんわね！村は、嫉妬されると！

アスミ 暮らしていけますよ！村全体で取り組みましょう！そうすれば誰が誰に嫉妬するということも

ないでしょう？化学肥料不使用、無農薬の村として高級スーパーに売り込むんです！生産でも流通でも農協に頼らない、脱農協の村を…！

激しいドアベルの音。バン！とドアを閉める音。俊坊が息を切らせて登場。

俊坊 優一さんの車、パンクさせられとる！

優一 え…。

俊坊 あと、エンジンかからん。

優一 ええ！

俊坊 マフラーの中、バナナで一杯。

優一、電話をかけている。その他の人々、バナナをかじりながら話を聞いている。

優一 ええ、ええ、そげなんです。しつこいくらいに奥まで詰めてあって…ええ、完全に動きません。

物吉 タイヤもパンクさせられちよー…はい、蜂部村字上蜂部…おろろんの家…あれ…？
どげした？

優一 切られたわね。

耕一 高橋モーターもダメかね？

優一 ダメだわ…おろろんの家ちゅー名前出ただけで切られる…。

物吉 JAF呼ぶしかないかね。

俊坊 (袖中を覗いて) あ…！武志の車だわね！

皆、袖際に集まる。程なくしてドアベル。武志が駆け込んで来る。

武志 いやー済まん、皆。

優一 で、どげだったかね、武志。

武志 やっぱり見られちよったわ。

耕一 やっぱりか…！

武志 もう、あつちこつち電話で触れ回った後だったわね。

俊坊 ばあちゃん…。

武志 東京から来た女が、優一さんの田んぼで「オロロン滅んだ、全滅だ」って泣き叫んどったって…。

物吉 あー、だけん優ちゃんの車がやられたんだわ。

武志 すまん、優一さん。

優一 うーん、いや…やっぱり俺、出てくわ。

耕一 優ちゃん！

物吉 くそお！何で優ちゃんが… (アスミに) お前えが悪いんだわ！お前えなんかが村に来るけん全部

アスミ おかしくなったわね！

俊坊 …。
そげだわ！出てくならお前の方がね！

物吉、俊坊、耕一、アスミに村を出て行くよう詰め寄る。

優一 やめえだわ…アスミちゃん責めてもどうにもならんがね。
耕一 優ちゃん！優しいのもいい加減にするだわ！

俊坊 悪いのは、全部この女だわね！

アスミ 私は、悪かったとは思ってません。

俊坊 何い！

アスミ 可哀想に…オロロン。悪いのは自分じゃないのに…こんな人たちに滅ぼされて…。洪水から守つて来た人達に水を汚されて…可哀想。

惣吉 あ？

俊坊 お神楽のハナシとゴツチャにしとるわ、この女。

惣吉 あれは伝説だけん。

アスミ とにかく、私はオロロン達の仇を討ちます。団体にはありのままを…。

惣吉 させつか！おう、俊、村のもん者みんな集めるだわ。この女に申し開きさせるけんな。

武志 やめえだわ、惣ちゃん。悪いのはばあちゃんだけん。

惣吉 武志、車貸してごせ。俊。

俊 おう。

武志 惣ちゃん…。

惣吉、武志の胸ぐらをつかむ。

惣吉 このまま優ちゃんが追い出されてもいいかね？あ？車貸すだわ。

武志、惣吉の剣幕に押されて鍵を出す。俊、鍵を持って袖から出て行く。ドアベル。

惣吉 優ちゃん、安心するだわ。絶対、優ちゃんのせいにはさせんけんな。

優一 やめてごせ…。やめてごすだわ…。

と、優一のケータイに着信。

優一 あ？かーちゃん。今、とり込んだるけん…うん。え！

全員、優一を振り返る。

優一 うん…うん…分かったけん、うん。またかけるけんね。(ケータイを切る)

耕一 どげした？優ちゃん。

優一 ウチのJA口座が止められちよるって。

男達 え！

優一 いよいよ農協にも睨まれたわ…。もうダメだわね。

ドアベル。バナナを持った俊坊が飛び込んでくる。

俊坊 た…武さんの…武さんの車のマフラーもバナナだらけになつちよる！

武志 え…？俺のも？

俊坊 これ、貼ってあった。

かわいいオロロンのイラスト。「わし、生きとうわね。」と、フキダシに書いてある。その上に、「お前からまとめて出ていけ！ダラクソ！」と書いてある。全員沈黙。うなだれて椅子に掛ける。アスミは一度袖に入り、カップをトレーに載せて戻ってくる。

アスミ どうでした？

惣吉 止められとる…。

武志 わしら全員のJA口座が止められとる…。

俊坊 (アスミを見て) いいわね、気なんか遣ってお茶なんか淹れんでも。

惣吉 あんたにあげに酷いこと言ってしまったのに。

アスミ 優一さんを守ろうとした一心でしょ？

武志 優しいわね、アスミちゃん。

俊坊 優一さんレベルの優しさだが。

耕一 しかし、何でかいね…何で今まで真面目にやって来て、こげな目に遭わんといけんかいね。

アスミ あたしのせいですかね？

俊坊 いや、もはやアスミちゃんのせいじゃないわね、これは。

耕一 農協が悪い…。

武志 そげだわ！そもそも大量に化学肥料を使わんといけんようにした農協が悪いんだわね！

俊坊 村のモンもダラクソだわ！わしらのような若者を追い出したら、村には本当にジジババしかおらんようにらるけんな。

耕一 ダラや…ダラクソや…農協も村のモンも…。

惣吉 自分から村の寿命を縮めてしまったわね。

優一 以外の男達、暗く笑う。

優一 アスミちゃん…。

アスミ はい。

優一 俺、やってみるけん…有機農業。

男達 え！？

優一 どんだけ金とか手間とかかかるか分からんけど…嫉妬されてひどい目に遭うかもしれんけど…。

武志 無理だわ…優ちゃん。

優一 俺らが出てったら、村はおしまいだけん。

惣吉 よっしゃ！それなら、わしも協力するわ！優ちゃん！

武志 惣ちゃん…。

耕一 梨畑、売ってでも協力するけんな、優ちゃん。

俊坊 あんな山がちな畑、いくらでも売れんわね。

耕一 ああ！？このダラが！

耕一、俊坊の頭をはたく。全員笑う。

武志 よおし、優ちゃん、死ぬときや一緒だけんね！

惣吉 どうせ村はジジババばかりだけん、俺らが一齐に逆らったらだれも反対できんけんね。

武志 失敗したら出てくだけだけん、メチャクチャ反抗して仕返ししてやるわね！

俊坊 泣くまで許さんわ！

全員、笑う。

アスミ 皆さん、よく言ってくれました。それなら、NPO法人「おろろんの家」が皆さんを支援します。

男達、盛り上がる。

優一 でも、アスミちゃん、もうオロロンはおらんけん。

俊坊 そげだわ、オロロンのおらんところに、どげして「おろろんの家」が支援してくれるかね？

アスミ オロロンは、います。

武志 あ？

アスミ 私は信じます。

惣吉 じゃあ…。

報告は一時取り止めますから、その代り、皆さんでオロロンに優しい環境を作ってください。…オロロンの生息環境改善のためなら、大きな予算が取れるはずですよ。

優一 よーし、じゃあ、やるわね！

男達 やるわね！

優一 じゃあ…とりあえずどげするかね？

惣吉 とりあえず乾杯だわね、あすみちゃん、ビール…。

アスミ 村フェスやりましょう！

男達 村フェス？

企業とかマスコミとか自治体の関係者さんと呼んですね…村の商品や新しい取り組みなんかを紹介します。で、お金と注目を集めるんです。

俊坊 面白そうだがね！（いったん袖にはける）

武志 そげしたら、村の寄合に…。

アスミ 無視しましょう。

武志 え！？

惣吉 どうせ相手にもされんけん。

武志 でも、ケーサツ沙汰とかに…。

マスコミも呼びますから。その時は皆さん、真実を叫んで自爆して下さい。コトが明るみに出れば村はお終い。農協は大打撃。

優一 （渋面で）…なるほど。

耕一 誰も通報できんわね。

物吉 ザマー見いだわ！よし、武志、おめえ企業とかマスコミとかにメール送れ。FAXも送れ。

武志 おう！

優一 じゃあ、わし、家族用に作った「優ちゃんライス」出すわね。

耕一 低農薬のやつかね！？

優一 無農薬だが。

耕一 おめえ！自分の家族だけ！

物吉 じゃあ、俺あ惣ちやんとマトを…。

耕一 お前えの青いトマトじゃ売れんわね。

物吉 硬え梨に言われたくないがね。

俊坊 ハイハイハイ！乾杯するだわ！（おろろんビールをトレーに載せて来る）

優一 おめえ、店のモン勝手に…。

アスミ いいですよ、今日はオゴリで。

全員、歓声と拍手。

物吉 よーし、じゃあ蜂部村新生を祝して！

全員 乾杯！

全員、杯を掲げる。

全員、俊坊を残して袖へ。

俊坊

はい、本日は蜂部村フェスタへようこそ！さて、皆さんの目の前には何がありますか？ね？知つちよる、僕？そげだ、チェーンソーだわ。じゃあ、その僕の前には何があるかいね？そげだよ、でもね、それシャベルカーじゃなくてショベルカーっての知つとるかね？はい、ではこれから君たちに目指してもらおうのが、あそこにある廃墟！誰も住まん様になった可哀想なお家です。そのお家に最後の止めを刺すというのが今回君たちに課されたお仕事でございます。村のお仕事体験コーナーでございます。

はい、じゃあショベルカーの僕ね。キー回してみるだわ？そげそげそげそげ、かかったかかった。いいねえー。いいよー。ぶつ壊せー！

泥酔した武志登場

武志

おい、お前何やつちよるかね。

俊坊

おお、いま職業体験コーナーだけん。村の解体業者体験、子ども達に。

武志

そげかね、廃墟なら豊富にあるけんね。

俊坊

うっへっへっへ、見いだわ見いだわ、すごい楽しんどうわね。

武志

：燃やすか、廃墟。

俊坊

燃やす？

武志

焼き畑農業体験。

俊坊

危なくね？

武志

大丈夫、わし消防団だけん。責任もって消すけん、あははは。

俊坊

子ども達ー！みんな下がるだわー！今ねー、消防団のおじちゃんがちょっと楽しいこととしてごすみたいだけん。

武志

おま、おまよう見ちよけよ。おまこんなことしたら本当はいけんけんな。うへへっへ…点火！（廃墟に火を放つ）うおー！おとおお！燃えろ燃えろ！

そこに耕一がオロロンの仮装で登場。ほぼ、もののけ姫のシシ神様。

耕一

はい、はい、では、皆様、本日はようこそ我が蜂部村フェスタにお越しく下さいました。えー、聖地巡礼ツアーと銘打ちまして、宮崎駿監督の『もののけ姫』：その『もののけ姫』の舞台が、この蜂部村ということば、あまり知られていない事実であります。ね、お嬢さん、そうなんですよ。で、ですね、あの中に出てくる、シン神様。アレが我が村の天然記念物オロロン、これをモデルにしているという事もまた、あまり知られていない事実であります。

アスマ

耕一

オロロンです（一礼）。私が一人で考えました。

武志

燃えろ燃えろ！

耕一

何やっちよるかね？

武志

野焼き体験だわね。

耕一

キャンプファイヤーじゃなかったかね。

俊坊

どげしたかね、その格好。

耕一

聖地巡礼だわね。もののけ姫ゆかりの地を巡るんだわ。

俊坊

そげなトコ、あったかいね？

耕一

ない。

惣吉、大量のトマトを持って登場。できれば、青いプラスチック製のもので、段ボール箱何箱も。

惣吉

おうおう、ちよつとなんかつまむもん欲しくないかね？

耕一

おう、青いトマト。

惣吉

やかましいわね。

アスマ

一つもらいます。うん、青臭くておいしい。

惣吉

…。

武志

アスマちゃん、炙ると少しおいしくなるけん！

アスマ

ホントですか…？

俊坊

あ！

惣吉

どげした？俊。

俊坊

ジジババどもだわ！

惣吉

ついに来たか！後期高齢者どもが！

耕一を残して全員下手に集まる。耕一はゆるきやらの衣装で簡単には動けない。

耕一 あー！皆、待ってごせ！

惣吉 やいやいやいやい！

俊坊 村フェスは絶対やめさせんけんね！

武志 火遊び？冗談じゃないけん。野焼き体験だけん。

俊坊 誰も住んでない家をぶっ壊して何が悪いかね！

惣吉 農地に違法に建てた家のクセして！

武志 後付けで農地として使っていないって認められれば、宅地として高く売れるけんね。

アスミ そのうえ、この土地は名義貸しがなされてますね。所有者は高齢で亡くなっちゃってるし。

惣吉 借り受けた地権者は、どこの誰かもわからん。

俊坊 生きとるのが、死んだるのかもわからん！

武志 この家も、何のために建てたんだか。

惣吉 後ろ暗い目的に決まっとうわね。

男達、意地悪く笑う。

耕一 あの、アスミちゃん、こっちに戻って来て下さい。そして、私をそっちに連れて行って下さい。

俊坊 調べたらこんな家ばかりだわね！

武志 廃墟だらけになるはずだわ！

惣吉 村の大事な農地をこげなことに使いやがって！

俊坊 農業する気もないクセにのお！

アスミ (村の高齢者に) そうですね、私たちは違法かもしれませんが、でも、もしどうしても私たちを止

めたいなら…。

俊坊 地権者を探して来るだわ！

男達、「お前らこの土地と関係ないけんね」などと言って笑う。

惣吉 ほう、腕づくかね、面白いがね。お前らのような後期高齢者が、こげん四十代の若者と殴り合っ

て勝てると思うならかかってくるだわ。

俊坊 警察？呼ぶなら呼ぶだわね。

アスミ 農協様と天然記念物との関係について、お集まりのマスコミの皆さんに聞いて頂きましょう。

惣吉 あー、可愛いそうにのう。農協様の逆鱗に触れて…。

俊坊 お前らもう農業続けていけんけんな！

武志 わしらか？わしらはいいわね。

惣吉・俊坊 武志 どうせわしら、村八分だけん！

耕一 あのー、私もそつちに…。

惣吉 いやはあー、農協に寄りかかった農民の末路は悲惨だがあ。

俊坊 おら、何ぼーと突っ立っちよるかね…。

惣吉 村フェスの邪魔だけん。

武志 この炙った青臭いトマトでも喰らうだわ！（トマトを上手の袖に投げつける）

惣吉 あ！

耕一 （トマトに当たる）痛あ！

武志 ごめん。

惣吉 投げーじゃないわね！食いモンだけんな！

武志 青虫だけだわ！こげなもん食うのは！（惣吉にトマトを投げつける）

惣吉 痛え！（舞台上手に逃げる）

俊坊 帰れ！高齢者ども！（下手袖にトマトを投げる）

惣吉 おい！ヤメエだわ！ヤメツヤメエだわね！（上手袖に立ち塞がる）オレに投げーじゃないわね！

惣吉 オイ！コラ！ヤメロってっいっちよるだろうが！ダラクソコノ！こうなったら応戦してやる！

惣吉 （惣吉、叫びながらトマトを投げつける）夏の間中…！あんな汗拭き汗拭きトマトを…！雨除けかけて…！色んなことさんざんして収穫したトマトを…！

俊坊 さあ！子供たちもトマトを投げよう！

優一 （下手袖から登場）えー、優ちゃんライス、優ちゃんライス。棚田で育てた無農薬の蜂部優ちゃ

耕一 ん…ぐわ！（トマト戦争に巻き込まれる）

武志 こわい…こわいよお…。

俊坊 やった…！

武志 高齢者どもが…ジジババどもが退却していくがね！

惣吉 勝ったんだ…！

惣吉 トマトお…。

アスミ さあ、皆で勝ち鬨を上げましょう！
俊坊・武志 エイエイオー！

耕一と惣吉、優一、泣きながら唱和。アスミも最後には唱和する。

耕一、オロリンの扮装のまま新聞を読み始める。アスミ、袖からティーカップを載せたトレーを運んできて、皆に配る。

耕一 都内から地方への若者の移住が進んでいる。その旗手としてよく耳にするのが島根県の蜂部村である。有機野菜の産地として近年有名になった同村だが、転機となったのは数年前に始められた村フェスだった。耕作放棄地に建てられた違法建築を引き倒し、火をかけるという一種テロリズムにも似た脱農協を目指す農民たちの反逆的な趣向は、野性的かつプリミティブ。村フェスの枠を超えて都市生活に飽き足りた多くの若者たちの共感と呼んだ。現在、蜂部村は自治体の人口増加率でトップを走り、NPO法人の協力もあって農協を通さない有機野菜の販路も年々拡大、農業人口も増加している。左写真はフェスクライマックスのトマト投げを主催している惣吉さん。ユニークな“投げ”トマト農家。「みんな、蜂部にトマト投げに来てごせ」。右はゆるキャラのオロリン。

男達から歓声と拍手。武志だけは不機嫌そうにしている。

俊坊 すごいすごい！

惣吉 ついにここまで来たけん。

優一 アスミちゃんのお蔭だわ。

アスミ それほどでも…。(照れる)

武志 いやあ、しかし、この記事嘘ばかりだが、あははは。

全員沈黙。

武志 ほとんど農地は企業に売り払ってしまったけんね。村の年寄りはおもう俺達に逆らえんけん、バン

バン言う通り土地手放してくれたわね。…今、村のモンで農業やっとなんて誰もおらん。

企業が集めて来た派遣社員ばかりだけん。

そげなことないわね、俺だって農業やっとなんけん。

お前のは、農業じゃないけんね。

…。

惣吉
武志
惣吉

武志 お前、そげん好きだったかいね？

耕一 いや、好きじゃないわね。好きじゃないわね。ありや、商売でやっただけだわね。

耕以外 あーあー。

耕一 これから営業だけん。

優一 あー、だけんそれ脱げんのかね。

耕一 もうじき梨畑も手放すけん、これ一本にするわね。

俊坊 カミサンは営業先で引っかけたくちかね？

耕一 そげだわー！落ち着かんわもう、ご飯食べながら見るのが、DVDだけん全部。

耕以外 あー…(溜息)

耕一 「♪はりつめた〜」とか言つとるけんな。

武志 あはははは！

耕一 お前んとこのヨメは、アレだもんなあ。無個性でいいなあ。

武志 ウチのはもう駄目だわ、別れるわ。

耕一 何で駄目かね？

武志 都会の女が観光来た時に、ナンパしただけども。なんか、もううまくいかんわ。もう二言目には、

耕一 なんも無いだのなんだの…コンビニが無いの言い出すけんね。

耕一 まあ、これからバンバンバンバン出来るけんねえ、何でも。

惣吉 そげだな。今、勢いあるけんな。コンビニだつて、なんだつて出来るわね。

耕一 そういえば、結局優ちゃんは…。

俊坊 浮いた話一つ聞かんね。

武志 そげだなあ。

優一 一人で生活していくのに手一杯だわ。

惣吉 ナニ言っちゃうかね、この好景気に。

武志 ワシ知っちゃうるけんね。お前、アスミちゃんとの前一緒に歩いちよったの、ワシ見とつたけん

優一 な。あ…な…一緒に歩くくらい、誰だつて…。

アスミと優一、曖昧に笑う。

俊坊

アイコンタクトしちよーわ。

耕一 あー、そげか！お前、スミに置けんねえ！
惣吉 そげだったんかい！
武志 どげかね、結婚はさんかね？
優一 実は金がないけん、式はナシで披露パーティーだけこの店でやろうと思っとるんだわ、な。
アスミ うん。
俊坊 “な”、“うん”とか言っちゃって、もう！
惣吉 そげかあ、我らがマドンナ、アスミちゃんもついに優ちゃんのモンかね。
アスミ やだ、皆さん、ちゃんと素敵な奥さんいるじゃないですかあ。
武志 あすみちゃんのがいいわね！
俊坊 武さん、初めて来た日も同じこと言っとなつたわね。

全員、笑う。

惣吉 おめでどう。
耕一 おめでどう！
武志 幸せになるだわ。
俊坊 余興は任せてごすだわ。
優一 だんだん…だんだん…みんな。(泣き始める)
惣吉 泣くなや、嫁より先に。

全員、笑う。

惣吉 じゃあ、めでてえところではしら失礼するけん。
アスミ え？もう？
俊坊 今日、企業の偉い人来るけんな、寄合で会議だわね。
耕一 わしは営業。
アスミ あら…。
惣吉 じゃあ、車まで連れてってごせ。
惣吉 しょうがねえな…俊、そっち持ってごすだわ。

耕一、惣吉、俊坊、袖へと去る。

優一 武志はどげすうかね？

武志 パチンコ。

優一とアスミ、苦笑い。武志も笑いながら出て行こうとする。

武志 優ちゃん。

優一 ん？

武志 まだ米作りするかね？

優一 作るよ、なんでかね？

武志 いいことにならんよ。

優一 え？

武志 もうこの村で百姓やつとつてもいいことないけん。

優一

…。優しいのもいいかげんにせんと、裏切られるわね。アスミちゃんも。

武志

え…はい。

武志、手を振って出て行く。アスミと優一、顔を見合わせる。

アスミ お茶淹れるね。

優一 手伝うわ。

アスミと優一、退場。入れ替わって惣吉と俊坊が登場。プレゼンテーションの真っ最中。

惣吉

えー、今までは上蜂部周辺の農地だけを集約して、コストを抑えてきました。今回、これを中蜂部まで広げて、田畑輪換を行いたいと考えちやります。知っての通り、トマトは連作に弱いですから…は？…はい、ご質問？俊、マイク。

俊坊、マイクを持って客席方向へ捧げる。

惣吉

え…は？農転？この地域をショッピングモールに？は？ちよつと待って下さい。ま、確かに人口も増えてますからそれでも採算は取れるのかもしれませんが、蜂部は農業の村…（別のところで手が挙がる体）はい、国交省の…はあ…俊、マイク。（俊坊、マイクを持って動く）は？高速道路の出口？もう決まったんですか？…は…俊、マイク、早く。宅地造成？（俊坊に）マイク。ゴミ処理場？火葬場？廃棄物埋め立て地？墓地？宗教法人施設？パチンコ屋？パチンコ屋？道の駅？パチンコ屋？ちよつと待って下さい、それじゃ村はパチンコ屋だらけに…それに農地転用だって許可がいつ下りるか…そんなものは下りるんだ？下ろすんだ？何なら先に建てちまって後付けで…？それじゃ昔の村と何も変わらんじゃないですか！

俊坊

俊…。

惣吉

蜂部は…有機農業の村だけん、人が集まってきたとるんですよ！

俊坊

そ…そげだ！農業をおろそかにしたら元の過疎村に逆戻りだ！は…？していることにすれば良い？農業？馬鹿にしちようかね！

惣吉

はい…ちよつと畑も残しておいてくれる？ハアハア…。

俊坊

だめだがね、俊！口車に乗せられたら。こいつら、この村を町にしようとしとるがね！え？わしらが一番儲かる…。

惣吉・俊

お話、聞かせて下さい。

惣吉と俊坊、マイクを片手に「Can you celebrate?」を歌い出す。タンバリンを持って、リズムを取るオロリン姿の耕一、ブブゼラを鳴らす武志、普段着の上から直接蝶ネクタイとタキシードの優一、ベールをかぶりブーケを持ったアスミ、それぞれ登場。歌が終わり喝采。

惣吉 よーし、お前えら、もう一曲ずつうたったかいね？

全員、「イエーイ！」と拍手とタンバリンとブブゼラで応える。

惣吉 よーし、じゃあ最後に新婦から新郎へ手紙の朗読！

全員「イエーイ！」と応える。優一だけ驚いている。

優一 聞いとらんがね！（笑）

俊坊 サプライズだわね！

アスミ

優一さん、あなたと会ってもう何年が経ったでしょうか？あの時は三十路を迎えたばかりで、あなたは四十路そこそこでしたが、見事に三十半ばと四十半ばになりましたね。若いお嫁さんじゃなくてごめんね。（全員、何故か「いえいえいえいえ」とか言う）最初はオロリンのすみか棲家を奪った皆さんを怨んだりもしましたが、わざとではないし、今は努力してくれているので逆に感謝しています。

特に、優一さんが…方法的には間違っていました…食べられそうだったオロリンを沼に逃がしてあげた優しさに感動しました。今度は私が優しくしてあげるので…（ここで優一を除く男達「ヒューヒュー！」）…困ったことがあったら隠さないと相談してね。私はオロリンが見つかるまで死ねません。蜂部の有機野菜と優ちゃんライスで、二人で仲良く長生きしましょう！これからもよろしくお願いします！アスミより、優ちゃんへ。

全員、拍手。優一、泣く。

惣吉 泣くと思ったけんなー！

優一 だって…おめえ…ちくしょう…

俊坊

さて…

武志　じゃあ、帰るけん。

優一　え…もう？

惣吉　もうって…（笑）もう三時だわね。

優一　ああ…。

俊坊　あとは二人で優しくしてもらいな。

優一、うれしそうに俊坊を叩く。

アスミ　今日はありがとうございました！

惣吉　うん、近々アスミちゃんの両親ちゃんと呼んで、式やらんといけんな。

優一　その積りだが。

耕一　幸せになってごすだわ。

優一　お前も、早く人間に戻れるといいな。

武志　じゃあ、今日は俺の車乗ってくださいわ。

優一を除く男達、「おー」とか「一人だけ酒飲んで悪かったわね」とか言いながら、下手袖へと去る。
見送る優一とアスミ。

アスミ　（周りを見回して）片付け、明日にしようか？

優一　だな。

アスミ　いい結婚パーティーだったね。

優一　うん。

アスミ　明日も休めないの？

優一　サラリーマン時代と違うけんね…毎日草取りせんと…除草剤使えんけん。

アスミ　…ごめんね。

優一　え？

アスミ　あたしが有機農業なんて言ったから。

優一　いや…まあ昔からやってみたかったけんね、専業農家。ただまあ…。

アスミ　大変？

優一　あれだわね。正直…ちよつと一人じゃやれんわ。もう、追い付かんわ。

アスミ 手伝う？

優一 ま、二人おつてもなあ、あんま変わらんけんなあ。

アスミ 二倍になるよ、二倍に。

優一 そげだけど、あんま変わらんわね。

アスミ ああ。

優一 農協からコンバイン借りれんけんね、思い切って買ったわね。そのローンがかなりキツイんだが。

アスミ みんなで買ったら？

優一 共同購入かね？考えたけども…まあ、企業に田んぼ売り払つとるやつが多いけん、頭数が少なすぎて結局無理だったわね。

アスミ うーん。

優一 それに、今は企業も米作つとるけんね。向こうは広い農地でコストカットしとるけん。同じ蜂部の有機米なら、皆安い方買うわね。勝負ならん。…もう、アレだわ。田んぼやめてしまおうか

と思つちよるわ、ホントに。

えー…。

ワシも続けたいけどね。…農協つてやつばスゴいわ。生産した米は全部黙つて買つてくれたけん。

…せつかく農協と手が切れたのに…。

…うーん。

皆に手伝つてもらえばいいんじゃないの？「死ぬときは一緒だわね！」とか言つてたじゃない、みんな。

今更やらんわね、米作りなんて採算の合わんこと…皆なんか他の仕事しちよるけん、農業以外の。

惣吉さんは？投げトマト。

あれは農業じゃないけん。

武志さんは？

武志？

お金持つてるじゃない。

金持つてたつて…あいつはもう働く気が…。

そんなことないと思うよ。

そげかな。

じゃあ、何で農地売らされて不満そうにするの？

ああ…そげだな。

優一

アスミ

優一

アスミ

優一

アスミ

優一

アスミ

優一

アスミ

優一

アスミ

優一

アスミ

優一

アスミ

優一

アスミ

優一

アスミ

優一

アスミ

優一

アスミ

優一

アスミ

優一

アスミ

優一

アスミ

女

優一

ね

そげか…武志な…うん、誘ってみーわ。

女

なんかあたしも再開しようかな、フィールドワーク。村とNPOの連携も上手くいってるし。

優一

また、水質検査？

アスミ

それ、企業さんでやってくれているから、私は専らオロロン探し。

優一

そげか…見つかるといいね。

アスミ

うん！

アスミ、下手袖へと去る。

と、上手袖から惣吉の「優ちゃん、優ちゃん」という声が聞こえる。優一、「おう」と言っただけでドアを開く素振り。ドアベル。

優一 おう、おう。

惣吉 お早う。悪いわね、こげな朝っぱらから。

優一 いや、もう田んぼ出て代かきしようと思っとなつたけんね。この間のパーティーはだんだん。

惣吉 や、こつちこそだんだん。

優一 店でやったのに、あげにご祝儀もらってしまつて…。

惣吉 そげなことより優ちゃん、武志から聞いたわ、米作り大分行き詰まっちゃるって。

優一 武志…あいつもスピーカーだな。うん…だけん武志も誘つて…。

惣吉 悪いけど無駄だわね。一人が二人になつたところで企業には敵わんわね。

優一 だけど、そげすうともう米作りやつていけんくなるけん。

惣吉 サラリーマンにならんかね？

優一 は？

惣吉 俺も俊も、実はもうなつたわね。企業の正社員だわ。これ、名刺。（名刺を渡す）

優一 ……蜂部村おこし、夢プランナー。

惣吉 肩書は何でもいいわね。要するに企業と村民の間に立つて、農地の買収やなんかが上手くいくようにするんだわね。

優一 なーんだ、じゃあ今までと…。

惣吉 同じだわね。それで月給もらえるけんね。

優一 ほう、いいがね。

惣吉 いいわねえ…で、優ちゃんもらんかね？

優一 いや、わしゃ…。

惣吉 今まで通り、米作つとるだけでいいけん。

優一 え？

惣吉 夢プランナー。（上手袖から登場）

俊坊 おお、夢ディレクター。

優一 ……

惣吉 話がついたけん。優一さんの田んぼは残せることになつたけんな！

惣吉 そげかあ…。

惣吉 仕方ないわね。

俊坊 ……そげせんとただの失業者だけんね。

優一 約束が違うがね！…わしら、大企業だけん安心して…。

惣吉 口約束だけんな。

俊坊 あいつら、何ひとつ約束守つとらんわ。化学肥料も除草剤も使いたい放題…。

優一 本当かね！？

惣吉 水質検査の数字も嘘八百だわね…アスミちゃん。

アスミ、下手袖から登場。

優一 聞いたとつたかね…！？

アスミ、うなづく。

俊坊 おろろんの家の支援は打ち切りで構わんけん…。

惣吉 つつても、用水路ももう無くなるかフタしてしまふけん…。

俊坊 今度こそオロロン全滅だが。

惣吉 ちゅーより、最初からおらんけん。

惣吉と俊坊、疲れたような悲しい様な表情で笑う。アスミ、上手袖へ走り出す。ドアベル。

優一 アスミ！

優一、アスミを追って上手袖へ。ドアベル。

俊坊 兄貴。

惣吉 ん？

俊坊 追わんでいいんかね？

惣吉 そげすうか…。

俊坊 何か、疲れたわ。

惣吉　　ゆっくり行くわね…どうせ、もう逃げられんけん。

物吉と俊坊、けだるく上手袖から退場。ドアベル。

入れ替わりに、アスミと優一が飛び出して来る。

優一 どこ行くかね？

アスミ 蜂部沼！村中の排水が集まる所！あそこが一番影響が出やすいから！

優一 よし、分かった！（車に乗る素振り）

アスミ 用水路がなくなったら…あそこしかオロロンに住めるところ…ない。

優一 ん！？（キーを回す素振り）

アスミ どうしたの？

優一 エンジンかからん…（ハッと気づいて）排気筒！

二人、火がついたように車のリアへ回る。排気筒をのぞく素振り。

ア・優 バナナ…！

アスミ、いったん下手袖へ。

優一 どこいくかね！？

アスミ 脇の用水路！

優一、車を気にしつつ下手袖へ。そして、アスミの悲鳴。アスミ、フラフラとした足取りで舞台に登場。

アスミ あ…ああ…（試験紙を掲げて）真っ赤…真っ赤…。用水路がこれじゃ…沼は…。

優一、駆け寄ってアスミを落ち着かせようとする。

アスミ もう暮らせない！生きる場所がない！どこに…どこに行ったらいいの！

優一 大丈夫だけん！まだあるけん！

アスミ ない！ない！全部バラしてやる！報告してやる！この村にオロロンが暮らしていける場所なん

てない！化学肥料も使いたい放題！有機農業なんて嘘ばっかり！

優一 まだあるけん！ウチの…田んぼ。

アスマミ あ…。

優一 優ちゃんライスの田んぼなら企業の農地より上流だけん…：化学肥料も除草剤も使ったことないけんね…。

アスマミ …はやく、オロロンを保護して優ちゃんの田んぼへ…。

優一 いや、でも…もう、オロロンは…。

アスマミ 蜂部沼！…あそこにはまだいるの！まだ仲間が…。

優一 でも、車が…。

アスマミ 走って…走って行く…！

上手袖から武志とオロリン姿の耕一が現れる。武志はバナナを食べている。

武志 夫婦そろって仲良くどこ行くかね。

優一 武志…ちやうど良かったわ…車貸してごせ！

武志と耕一、笑いだす。

武志 貸すわけないがね。

優一 武志…お前え…。

武志 蜂部沼に行くんだろ？

耕一 そこで、水質調査をするんだらう？

俊坊 結果をばらすんだろ？（上手袖から登場）

惣吉 この村は環境破壊してるだの、有機農業やってないだの大騒ぎするんだろ？（上手袖から登場）お前えら…。

惣・俊・武・耕 村じゃ、言ったらいけんこともあるんだわね。

耕一 せっかくモノノケ観光が軌道に乗ってきたつてのによ…。

武志 邪魔されちやたまらんけん。

惣吉 蜂部は有機農業の村だけんね。

俊坊 人口増加を止められたら、商売あがったりだわね。

優一 じゃあ、わしの車をエンストさせたんは…。

武志 （バナナを示して）このバナナを見て気付かんかいね。

優一を除く男達、笑う。

武志 最初に優ちゃんの車エンストさせたのも、優ちゃんの田んぼにばあちゃん呼んだのも、全部俺だわね。

アスミ 何でそんなこと…。

武志 お前が優ちゃんばっか見て、少しもこっち靡(なび)かんけんな！…出てって欲しかったんだわ、この村から。

耕一 …最初から少しおかしかったけんな。長いこと優ちゃんのことじーつと見つめたりして。

俊坊 まあ、俺も少しは感じとったけど。

アスミ あたし、そんな積りじゃ…。

惣吉 まあとにかく、村じゃ嫉妬されたら暮らせんのだわ。

耕一 そこ、もつと氣い遣わんと。

武志 でもまさか、俺たちのJ A口座まで止められると思わなかったけん、あの時やヒヤツとしたわね。

惣吉 大ゴトにしすぎだわね、このダラ！

優一を除く男達、笑う。

惣吉 まあでも、そのことはもういいわね。

武志 よくないわね。

惣吉 俺もこれ以上大騒ぎにしたいくないけん。今度はお前えがこの村に住めんくなるわね。そげなつてもいいかね？

武志 …。

惣吉 そげだろう、和が大事だけん。アスミちゃん、優ちゃん、今のハナシ、無かったことにしてごせ。お前えらも、聞かなかつたな。

耕一 おう。

俊坊 知らん。

惣吉 よし、武志のアスミちゃんへのねじくれた愛とか、そういうの無かつたけんな。

アスミ 無かつたつて言われても…。

惣吉 無かったわね！（かなり強い調子で）

アスマミ

惣吉 な…そのかわりアスマミちゃん、アスマミちゃんには今のこの村の実態を…無かったことにして欲しいわね。

耕一 頼むけん！梨畑売ってしまったけん！観光がダメになったら生活できなくなーわね！

俊坊 今、人口増加がストップしたら、俺も兄貴も失業してしまうけん！

武志 どーでもいいけど、パチンコ屋が無くなーのは困るわね。（スマホをいじり始める）

惣吉 頼むわ、アスマミちゃん。

俊坊 全て忘れてごせ。

惣・俊・耕 忘れてごせ！（頭を下げる）

アスマミ 皆さんのことを許そうと思っていたのに。

惣吉 あ？

アスマミ

最初は皆さんのこと怨んだし、酷い目に遭わせてやろうと思いました。あなた方はオロロンの敵だから。でも、オロロンの住める村にしてくれるって約束してくれたから…化学肥料使わないうって約束してくれたから…。

男達、アスマミに対して少しづつ間を詰めはじめ。

耕一

使つとらんわね。

アスマミ

使つてるじゃないですか！

惣吉

もとはと言え、村フェスで注目なんぞ浴びたけん、あんな業者がたかってきたんだわね。

俊坊

誰かいねえ、村フェスやろうなんて言い出したんは…。

優一

アスマミのせいだっというかね！

惣吉

そげな事は言つとらんわね。

耕一

そげな事は言つとらんけども…ねえ。

惣吉と俊坊と耕一、目配せし合いながら笑う。

アスマミ

ひどい…ひどいところ…。

惣吉

そのひどいところで、お前えのダンナも生まれて育ったわね。

耕一 他所だって変わらんわ。街だって会社だって、上っ面一枚はがせば。
俊坊 日本中がこげだが。
耕一 さあ許してごせ、アスミちゃん。
惣・俊・耕 許してごせ。

無表情に傲然と迫る惣吉、俊坊、耕一。

優一 わかった！わかったけん！な、アスミ、許すだわ？許すだわね。

アスミ 許さない。

惣吉 あ？

アスミ 優ちゃんだけは許してあげる。あなたは約束を守ったから。

俊坊 この期に及んでラブラブしちよーわ。

惣吉、耕一、俊坊、大笑い。

武志 落としてしまえばどげかね。

俊坊 お？

武志 用水路、落としてしまえば。

惣吉 武志…。

俊坊 やめるだわ。

耕一 アスミちゃんは、絶対許してくれるがね…。絶対。

武志、男達を押し退けてアスミの前へ出る。

武志 許してごすだわ。

アスミ え…？

武志 優ちゃんみたいに俺も許してごすだわね。俺、農業やめたけん化学肥料流しとらんし。優ちゃんだけじゃなくて、俺も…。

アスミ 許さない。

優一 アスミ…許して…。

アスミ　あなたは、キライ。

武志、泣く。子供の様に大声をあげて泣く。

武志

何でかね？何で優ちゃんばつか欲しいもんが手に入るかね！月給取りになって、その上農業も続けられて、アスミちゃんと結婚して…。ズルいがね！ズルいがね！俺がアスミちゃんと結婚したかったがね！俺も農業続けたかったがね！みんなやりたいこと見つけて！企業の正社員になって！ゆるきやらになって！ズルいがね！何で俺ばかり失くすかね！損するかね！損しろ！お前らも俺と同じだけ、平等に損するだわね！そうじゃなきゃ、ズルいわね！ズルいわねエー！

武志、大泣き。優一、武志に近付く。

優一

武志…。

武志

優ちゃん…。

優一

ごめん。

武志、「謝んじゃねえわね！」と繰り返しながら、優一にすがりついて大泣きする。

俊坊

さあ、優ちゃんは武さんを許したわね。

耕一

今度はアスミちゃんがわしらを許す番だわね。

アスミ

イヤ。

惣吉

本当に…用水路に落ちなきゃわからんか？

優一、男達の前に立ち塞がる。一瞬の緊張。と、脱力する惣吉、耕一、俊坊。

惣吉

冗談だわね。

耕一

…はあ。

俊坊

あーあ…また元の冴えねえ村に逆戻りだわね。

惣吉、耕一、俊坊、泣き笑い。

耕一 仕事探さなきや…。

惣吉 離婚かな…。

優一 …みんな。

アスマミ 私、帰るね。

優一 え！？

俊坊 東京に？

アスマミ 責任取ります。…村フェスやろうって言ったの、私だし。

俊坊 え…いや…。

耕一 それはもう…。

アスマミ 優ちゃんともう少し一緒にいたかったわ。

優一 ちよっ…じゃあ、わしも東京行く…。

アスマミ …これからも、ずーっと優ちゃんの田んぼで見守っているからね。おいしいお米を作つてね…。

優一 アスマミ…？

アスマミ 私は帰ります。その代わり、約束を破った報いは皆さんもしっかり受けてもらいます。

惣吉 報い？

アスマミ オロチの餌食におなりなさい。

アスマミ、下手袖に飛び込む。

優一 ああ！！（自分も下手に飛び込もうとする）

惣吉 （優一を抑えて）危ねえ！

俊坊 アスマミちゃん！

武志 用水路に…何で…何で自分から！

男達 アスマミちゃん！（優一のみ「アスマミー！」）

男達、下手袖へ退場。

惣吉、村芝居に使う雨団扇をバタバタやりながら登場。この後、台詞とともに登場する男達は皆雨団扇を持ち、次第に強くなる雨足を表現する。

惣吉 夕方から降り出した小雨は次第に強くなり、島根県の西半分は歴史的な大雨に見舞われた。結局アスミちゃんは行方不明のまま遺体さえ上がらず、優ちゃんの嘆きはひと通りではなかった。

武志 が、話はそれだけでは済まなかった。夜半過ぎ、斐伊川の水位が堤防を越えて上昇。鉄砲水は用水路を遡り、真つ先にオロロンの家を飲み込んだ。

耕一 明け方、土砂崩れで一時せき止められた水が一気に流れ出す。堤防は決壊。土砂を含んだ濁流は幾筋もに分かれて村の施設、田、畑、人を押し流した。が…。

男達 優ちゃんの田んぼだけは不思議と全く被害を受けなかった。

惣吉 雨の上がらんとする頃、蜂部沼から這い上がり、何処かへと移動してゆく一匹の巨大な生物が目撃された。

武志 しかし、それ以上話題にのぼることはなかった。

俊坊 洪水ですべてを流された人々には、謎の生物に構っている余裕などなかったのである。

農協のノベルティに全身を包んだ優一が登場。せつせと化学肥料の袋を運んでいる。

惣吉 精が出るわね。

優一 ああ。

惣吉 また農協の組合員に戻れたんだって？

優一 おう。

惣吉 良かったわね。大変だけど頑張るだわ。

優一 なあに…お前えらの方が大変だろ。何もかも流されちまって。

俊坊 いや…。

耕一 案外、これで良かったんじゃないかという気がしとるわね。

武志 死んだ人には申し訳ないけど。

惣吉 見ろや。

惣吉、足元の土を拾い上げる。

惣吉 化学肥料のせいで固結してた土が、こんなに柔らかくなっちゃる。
俊坊 洪水のお陰だわね。

耕一 酸素の導入が良くなるけん…今年はちよつとキツイけども…。

武志 来年はよく実るわね。

耕一 アスミちゃんが生きとればな…。

優一 アスミは…生きちよる。

惣吉 …優ちゃん。

優一 この田んぼで、わしの米作りを見てくれちよるわね。そう言っちよつたわね。

全員、俯く。と、下手袖より、アスミが扮するオロロンが現れる。

耕一 あー！

惣吉 オロロンだわね！

皆、オロロンを取り囲む。

武志 いたんだわね！

俊坊 本当に生きとつたわね！

優一 アスミ…アスミい…！

優一、膝をついて泣く。

優一 アスミが生きとつたら…どんなに…どんなに喜ぶか。

オロロン、優一を尻目に化学肥料の袋に近付き、ヴーヴー鳴きながらバンバン叩く。

惣吉 おお、お前も優ちゃんの農協復帰を喜んでくれるかいね！

オロロン、ヴーヴーと首を横に振る。

俊坊 大丈夫だけん。

武志 今度の肥料は、環境負荷も低いつて農協さんが言うつつたけん。

耕一 もう、資材をかうお金で困ることもないし。

惣吉 米は全部買ひ取つてくれるし。

優一 農協つてやっぱり有難いわね。

男達、大笑い。オロロン、ヴーヴーと否定。

俊坊 よおし、この安全な化学肥料をドンドン使つて、村を蘇らせるわね！

男達 おー！

オロロン ヴーヴー！

優一 見てろよ、アスミ！農協さんの指導に従つて、わしは美味しい米を作るけんね！

オロロン、ヴーヴーと化学肥料の袋を叩く。優一以外の男達がそれを取り囲む。

惣吉 あー、いかんいかん。

惣吉・耕一・俊一・武 村では、言つてはいけん事もあるんだけん。

惣吉 ここに住みたいなら、覚えておきなさい。

村人達、客席に一礼。

完

※本作品を使用して上演する場合には、事前に権利者の許可を受ける必要があります。また、上演したものを記録する場合は、作者に上演ならびに複製(記録映像作成)許可料を支払うことで、脚色・改変等含めての使用と、上演したものを映像等に記録することが出来るようになります。

○上演ならびに複製許可料について

アマチュア・学生団体の無料での公演でも、原則として 5000 円を頂戴します。プロの団体の公演(有料・無料問わず)、及び、アマチュア・学生の団体の有料での公演については、座席数・ステージ数・チケット料金等を考慮して金額を提示させていただきます。

○非営利・無料・無報酬での上演

著作権法第 38 条 1 項により、非営利・無料・無報酬での上演について、無許諾かつ著作権使用料無料での上演は可能です。ただし、第 50 条の「著作者人格権に影響を及ぼすものと解釈してはならない」という条文により、これには以下の条件が付加されます。

- ・ 作品名と作者名を明示する。
- ・ 台本に変更を加えない。題名も変更しない。
- ・ 上演の映像・音声記録をしない。またそれを勝手に複製して配ったり販売したりしない。
- ・ 非営利な活動である。(営利団体からの協賛・後援等も受けない)
- ・ 入場料などを受け取らない。(おひねりやカンパ、グッズの売り上げも含む)
- ・ 上演に際して、誰も報酬を受け取らない。(交通費など最低限の実費は除く)

以上の条件を満たせば、著作権法上は作者に断りなく本作を上演できます。

しかし、できることなら以下までご連絡頂きたく。



劇団！王子の実験室

O-Ji laboratory

主宰 田口 浩一郎

Koichiro Taguchi

〒231-0054 横浜市中区黄金町2-7先 黄金スタジオD
Tel. 090-4926-9732

✉ oozino@icloud.com



よろしくお願ひ致します。